

◆図書室より、新刊のご紹介

※一般書

○向田邦子全集 向田 邦子

小説二 あ・うん

小説三 隣の女

男どき女どき

○相克 佐伯 泰英

父、金杉惣三郎が神保桂次郎とともに出奔。すべては桂次郎を息子の清之助を凌ぐ剣者に育てるためだった奥州仙台藩でさらなる高みを目指す清之助。一方、惣三郎との過酷な修行に自らの剣を見失った桂次郎も同地へと向かっていった葛藤する三者の魂がぶつかり合い激しく渦巻く。

○野山の名人秘伝帳

かくま つとむ

ウナギ漁、自然薯掘りから、野鍛冶、石臼作りまで

※児童書

○オバケマンション

オバケ VS ドクロかめん

むらい かよ

○きみも名探偵!

8恋のハートは探偵気分

日本児童文学者協会



お月見といえば連想するのは、ウサギの餅つき、かぐや姫が帰る星 というところでしょうか。

昔は7月、8月、9月を秋と言ったようです。真ん中の8月が中秋であり、「お中日」である15日に月を鑑賞する風習が中国より伝わったとあります。8月15日は新暦の現代では、9月半ばから10月の初旬あたりにあるそうですが、今年は10月3日が「中秋の名月」にあたるようです。鑑賞する月はふたつあって、ひとつは澄んだ空気の向こうに鮮やかに明るい名月を観るのと、もうひとつは水面に映った揺れる月を愛でるのだそうです。平安時代の貴族たちの雅な宴から江戸時代に

は庶民の祝宴にと広がったようです。いずれにしてもお酒と詩歌をともなつたわけで、杯に浮かべた月を飲むなどとはなんとも風流な酔い心地なのでしょう。収穫を感謝する芋名月の地方もあるようです。洞戸のお月見スポットはどこでしょう? 写真を添えてご連絡ください。

R256洞戸みちへ

面白いもの発見。

ホームページ「ほうと何でも

あり」より転用させていただ

きました了承済

男女が仲良く寄り添っている石仏を見ると、何となく心和む気がしませんか。洞戸の興徳寺境内にある「双体道祖神」です。男像は杯を、女像はとっくりを持っているもの珍しいですね。もともと道祖神は、町や村の入り口にあって、外から疫病や、妖魔が入り込まないようにと建てられたと言われます。双体道祖神は夫婦円満 縁結び、

子宝等の神様として江戸時代に信仰を集めたようです。

全国には、いろんなバージョンの石像があるようで、男女が手を取り合っているものや、女像の胸に男像が手を入れているものなんかもありますよ。ここ、岐阜県の洞戸地区は、双体道祖神の信仰の一番西の端に当たるようで、もともと、神奈川、埼玉、群馬、山梨など関東甲信あたりに集中していたようです。

静岡、長野、岐阜の飛騨にあり、美濃地方では、洞戸が一番西に当たるようです。岐阜県より西の府県には、双体道祖神が無いように見受け



双体道祖神